

運営推進会議 議事録

事業所名	地域密着型通所介護 レコードブック川越大手町
担当者	管理者 古嶋 洋基
所在地	川越市大手町8-6カーサボスコ1階T-103
開催日時	令和3年10月19日 火曜日（書面開催）
開催場所	レコードブック川越大手町
出席者内訳	新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止の為、書面開催とさせて頂きました。 (但し当職員:小椋、大堀、野村 計3名 情報共有)
議事録送付先	ご利用者代表 市川 六三郎様 ご家族 市川 承子様 地域包括支援センター キングス・ガーデン 安原 和美 様 川越市自治会 第四支会 山崎 耕一郎 様 川越市民生委員 水村 富美子 様
当事業所の運営業況	令和3年9月30日現在 利用者登録人数 90名(男性29名、女性51名) 利用介護度 事業対象者 8名、要支援1 18名、要支援2 14名 要介護1 37名、要介護2 9名 要介護3 3名 要介護5 1名 平均年齢 80.3歳
行事報告	集団運動 月間テーマ実績 ご利用者の多くが悩んでいることや元気で安全に生活していく為の予防知識を月間テーマに掲げた運動プログラムと紙芝居による動機づけを行います。 4月 目指そう！元気長寿 5月 転倒を予防しましょう 6月 運動で脳を元気に 7月 食事から元気長寿へ 8月 ぐっすり眠りましょう 9月 身の回りの動作をいつまでも続けよう
主な議題	※ 認知症介護基礎研修の実施
活動報告	認知症介護基礎研究について研修を行う。 《目標》 【研修で学んだことを踏まえ、当施設におけるスタッフの認知症ケアに関する課題を明確にする方法を理解し、課題に応じた指導能力を向上させること】⇒ 認知症の人を取り巻く環境改善 【講義】 1. 認知症の人の理解と対応の基本について 自分を理解して接してくれる人を頼りにしています。「この人に全て任せておけば私は安心だ」「あの人の傍に居れば認知症は怖くない」と安心感と信頼感を築けば、結果として認知症の進行を遅らせ、不穏や暴言などの様々な周辺症状も軽減することができ、我々施設側が担うべき役割を改めて確認できた。

2. 認知症の定義と原因疾患について

「加齢によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」の違い(一例)

	加齢によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
体験したこと	一部を忘れる (例: 朝ごはんのメニュー)	すべてを忘れている (例: 朝ごはんを食べたこと自体)
学習能力	維持されている	新しいことを覚えられない
もの忘れの自覚	ある	なくなる
探し物に対して	(自分で)努力して見つけられる	いつも探し物をしている 誰かが盗ったなどと、他人のせい にすることがある
日常生活への支障	ない	ある
症状の進行	極めて徐々にしか進行しない	進行する

- ・ 認知症には、根本的な治療が困難な認知症と治療可能な認知症がある。根本的な治療が困難な認知症としては、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などの変性性認知症が挙げられることを確認した。
- ・ 治療可能な認知症としては、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症などの内分泌疾患、ビタミン B1 欠乏症・ビタミン B12 欠乏症・葉酸欠乏症などの欠乏性疾患・代謝性疾患、自己免疫性疾患、呼吸器・肝臓・腎臓疾患、神経感染症など内科的疾患によって起きる認知症があり、処方薬などの薬剤によっても、認知症のような症状が現われることもある。そのため、認知症かもしれないと思ったら、まずはかかりつけ医に相談し、認知症サポート医や認知症疾患の専門医療機関の受診を進める事が必要であると確認できた。

3. 認知症の中核症状と行動・心理症状の理解

認知症の以下中核症状

- ・ 記憶障害 - 即時記憶の障害、近時 記憶の障害 - エピソード記憶の障害 など
- ・ 見当識障害 - 時間、場所、人物の見 当識障害など
- ・ 失語 - 語想起、語理解の低下 など
- ・ 失行 - 観念運動失行、観念失 行 など
- ・ 失認 - 視空間失認、街並み失 認、相貌失認、半側空 間無視 など
- ・ 注意機能障害 - 持続性注意、選択性注 意の障害 など
- ・ 実行機能障害 - 目標設定、計画立案、 目標に向かった行動、 効果的な行動の障害 など程度はさまざまなので、どの程度できるかを知ることが必要。

心理症状の理解

- ・ 身体や薬、物理的環境、スタッフや家族等の かかわり、本人の気持ちや価値観など、多面

	<p>的に支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「薬をくださいという人にどう声かけすると納得してもらえますか？」といったコミュニケーションだけでは、軽減は難しい。→ケアマネジメント ・ 認知症=BPSD ではなく、生活障害を適切にケアできていないと、誰でもそうするであろう行動 認知症の人の意欲・意思を捉える <p>例えば「人に会いたくない」⇒人に会わないように配慮するのではなく ⇒(認知症の)人は、他の人との「結びつき」を求めるはずなのに、どうして「人に会いたくない」と仰るのだらうと、考察し答えを見つけていく事が重要。</p> <p>4. 認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の中核症状を知り、サポートする ・ 身体や薬、物理的環境、スタッフや家族等のかかわり、本人の気持ちや価値観など、多面的に支援する ・ 認知症の人の話をしっかり受け止めてケアすることと、本人が深いところで求めていることを類推すること両方を大切にする ・ 認知症に伴う行動・心理症状の軽減を目的にするのではなく、認知症の人がしたいことを実現できるように様々な条件を整えていくことが必要
出席者からの評価	書面開催の為、資料配布のみと致します。
要望、意見及び助言	<p>認知症の理解は難しい。中核症状の度合いは個々に違う。本人の気持ちや価値観を尊重しながらご本人とご家族のケアしていく事が大切。より理解を深めるためにも、この様な研修を継続していく。</p> <p style="text-align: right;">レコードブック川越大手町 看護師 柳川真理子氏より</p>
今後の課題	スタッフ一環となり、認知症における対応力(体制の強化)を構築する
次回の開催予定	<p>日時:令和4年4月吉日</p> <p>場所:レコードブック川越大手町 店舗内にて</p>